

海外生活 エッセー

パリ事務所

パリの地下鉄(メトロ)乗車事情

(一財)自治体国際化協会パリ事務所所長補佐 和田 佳丈 (兵庫県派遣)

観光であれビジネスであれ、パリを訪れる訪問者の多くが利用する地下鉄(メトロ)。パリに初めてお越しになる方向けに、乗車方法についてご紹介します。

→ ホームにたどり着くまで一苦労

まずは駅の改札口に置かれている路線図を手に入れます。観光案内所や空港でも入手可能です。

パリの地下鉄は14路線あり、1号線、2号線という具合に番号が路線名となっています。

地下鉄の駅を探すにあたり、目標とするのは「METRO」と書かれた



地下鉄駅を示す看板

赤い看板。時折「Metropolitain」と書かれた看板や「M」マークだけの看板もあります。

切符の券売機は、画面操作がタッチパネル式のものや、画面下部にある棒状のコントローラーをくるくるまわして選択ボタンを押す方式のものがあります。切符の値段は、1回券の場合、乗車する距離に関わらず一律1.8ユーロ(2016年2月現在。以下同。)です。また、10枚綴りのカルネと呼ばれる回数券は14.1ユーロとお得になっています。子ども料金(4~10歳未満)はカルネの場合のみ適用され半額で購入できます。

改札機の種類もさまざまですが、切符を入れてから2段階の関門があるものが多く、バーに腰を押し当てつつ、その向こうにあるゲートを手で押して進みます。

構内では案内板を頼りに進みますが、行き先表示に終点しか表示されていないので上り下りのホーム選択が案外難しいのです。終点の駅はたいてい中心部から離れた

ところにあるわけですから、聞いたこともない地名だったりします。そこで、構内の分岐路に必ず設置されている写真のような看板で、いま自分が進もうとしている方向に目的の駅名があるか確認しながら進みます。



分岐路に掲示される路線図

→ 驚きの乗車方法から駅を出るまで

ホームにある電光掲示板には次の電車とその次の電車到着までの分数が表示されます。

いよいよ電車の乗車ですが、なんと電車のドアは開閉が手動式のものも多く、



ホーム電光掲示板

ドアについているボタンを押したりレバーを上げたりしないと開かないタイプが多いのです。一部路線では自動開閉のものもありますが、手動式が主流となっています。

車内でよく聞こえてくる言葉は「パルドン (Pardon)」。車内を移動するときに前の人に動いて欲しい場合は一言添えるのがマナーのようです。

目的駅のホームに降り立った後は「Sortie」と書かれた青色の看板に沿って進みます。駅の出口は扉式となっており、切符は回収されません。扉が手で押して開けるタイプの場合には、前の人はかなり高い確率で続く人のためにドアをおさえてくれていますので、その際は「メルシー (Merci)」と声をかけた上、続く人のためにドアをおさえておくことを忘れないようにしたいですね。